全国高等学校ビジネスアイディア甲子園

第11回全国高等学校ビジネスアイディア甲子園で準グランプリを受賞した「静岡県立浜松東高校」の勝崎さんが2013年1月20日、朝日新聞に掲載されました。

● 朝日新聞／2013年1月20日付
全国版 教育面

いま 子どもたちは No.449
「商」に学ぶ 10

紙パック開けにくい…そうだ！

浜松市の静岡県立浜松東高校情報ビジネス科3年の勝崎実輝さん(18)は昨秋、自宅で紙パック入りのオレンジジュースを開けていた。開け口を左右に開き、「口」を作ろうとするがうまくいかない。開け口はぼろぼろになった。「あー、また失敗。紙パックって開けにくい」

ちょうどそのころ、マーケティングの授業の課題で、商品やサービスのアイデアを競う「ビジネスアイディア甲子園」（大阪商業大など主催）に出品する商品の構想を練っていた。

「そうだ！　この不便を解消しよう」。紙パックの開け口を食卓保存袋に付いているスライド式のジッパーにしてはどうだろう。その方が開けやすいし、倒れてもこぼれにくいはずだ。

アイデアを図に描き、「ジッパックパック」と名付けて「甲子園」に応募したところ、今72回作品のうち、最終審査に残った6作品の一つに選ばれた。

最終審査では作品のプレゼンテーションが求められた。勝崎さんは、プレゼンの内容を練るため、地元の牛乳メーカーを訪れ、意見を求めた。



プレゼンテーションで使った牛乳パックを手にする勝崎実輝さん＝浜松市の静岡県立浜松東高校

「私のアイデア、商品としてどうでしょうか」

メーカーの担当者は「ジッパー部分をプラスチックではなく紙にすれば、コストが安くリサイクルもできる。実現可能ですよ」。高齢者から「牛乳パックが開けにくい」という苦情の電話があるという、「実現すれば、きっと喜ばれる商品になる」と励ましてくれた。

昨年12月、大阪商業大であった最終審査では、ジッパー部分を紙にするという案を採り入れ、実物の牛乳パックを手にプレゼンした。準グランプリに入賞した。

喜び牛乳メーカーを訪れ、結果を報告した。商品化に向け、牛乳パックの製造会社の人と引き合わせてもらえることになった。

勝崎さんは「自分のアイデアが誰かの役に立てばうれしい。スーパーに『ジッパックパック』が並ぶ日が来るよう頑張ります」。（斎藤純子）

◇

「『商』に学ぶ」は今回で終わり、次回は24日に始めます。

※朝日新聞社の許諾を得て転載しています。